

地域農業の将来について
計画策定進む

農政関係ですが、人・農地プランについては、令和4年度、新たに大畑・大畑麓地区と上・下田代地区の2地区で計画を作成し、作成済みの14地区と合わせ、市内18地区のうち16地区の計画を策定しました。農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増

組織別
経済部関連

自分の健康を自分で守るため

市民の健康増進関係ですが、自らの健康状態をしつかりと把握していただくための取り組みとして、市民健診などさまざまな施策を実施しています。

また、市民の健康づくりを推進するため、第3期人吉市健康増進計画・食育推進計画に基づき各施策を進めていて、令和5年度に第3期計画が最終年度を迎えることから、生活習慣病予防や重症化予防対策などを進めながら改訂作業に取り組みます。

加といった問題は年々厳しさを増していることから、今後とも市全域での農業振興策の在り方を検討していきます。

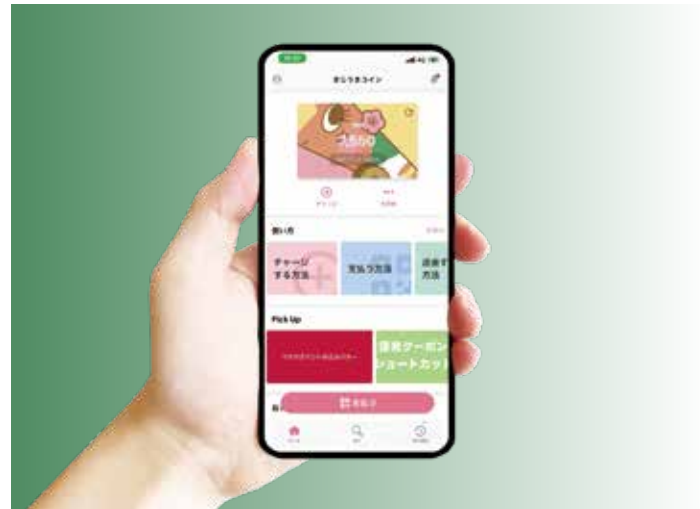
農地整備で生産性の高い農業経営へ

団体営農業農村整備事業については、令和元年度から実施してきた下戸越地区用排水路改修整備が令和3年度に完了し、令和4年度は赤池水無地区頭首工ゲート設置工事を実施しています。

県営上原田地区土地改良事業については、令和3年度、土地改良事業参加者へ水の意向調査を実施するとともに受益面積を確定し、事業計画変更に伴う関係機関との協議を行っています。令和4年度中には土地改良法手続きに伴う事業参加者への同意徴収が完了します。令和5年度からの事業実施に向け、県営土地改良事業の申請手続きを進めていきます。

利用広がる「きじうまコイン」

地域デジタル通貨「きじうまコイン（きじこ）」ですが、プレミアムポイント事業などの取り組みにより、きじこアプリのダウンロード件数も順



デジタル通貨「きじうまコイン」を使えば買い物が便利に



球磨川くだり発船場が生まれ変わった観光複合施設「HASSENBA」

調に伸びていて、現在、約1万2千人に利用いただいています。加盟店舗数も目標としていた100店舗を超え、利用しやすい環境が整ってきました。今後は市役所の手数料などの支払いにも利用できるよう準備を進めていて、同コインのさらなる利便性の向上に努めていきます。

ふるさと納税での支援に感謝

ふるさと納税関係ですが、令和4年度は2月19日現在で1万7463件、

3億8229万円の寄付を頂いています。件数、寄付額ともに令和3年度より減少していますが、豪雨災害前と比較すると一定の水準を保つ結果となりました。

企業版ふるさと納税は、令和4年度は合わせて10社から、合計390万円の寄付を頂きました。寄付いただきました個人、企業の皆さまに心から感謝を申し上げますとともに、支援いただいた施策を着実に進めていきます。

新たな船出を切った
球磨川くだり

球磨川くだり関係ですが、豪雨災害で被災した発船場は、発災から1年となる令和3年7月、「HASSENBA HITOYOSHI KUMAGAWA」としてリニューアルされ、新たな船出を切られました。本市としても、被害を受けた備品の再取得やバーアクティビティに対する割引補助など、同社の早期復活に向け支援を継続してきましたところです。

子育ての相談・支援体制
充実図る

出産・子育て応援交付金事業関係ですが、国では出産・子育てについての交付金制度を新たに創設していて、本市でも、子育て世代包括支援センターでのこれまでの取り組みに加え、妊娠期から出産・子育てまで一貫した相談体制の確立と伴走型相談支援の充実を図るとともに、出産・子育てで応援給付金の支給など、安心して出産・子育てができる環境を整えていきます。

さらには、経済的な支援に加え、家庭や子どもを取り巻く環境の変化に対応するため、本市の子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を一体化した「こども家庭センター」について、令和6年度中の設立を目指し準備を進めていきます。

手話言語等条例を制定

障がい者福祉関係ですが、全ての市民が障がいの有無によつて分け隔てられることなく、お互いの人格と個性を尊

重しながら、安心して暮らすことのできる社会の実現は、必ず成し遂げなければならぬものです。本市でも、市の責務と市民・事業所の役割などを明記した「人吉市手話言語の普及及び障がいの特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を制定し、障がい者支援のさらなる充実を図るため、さまざまな施策を推進していきます。

高齢者の生きがいある
安全安心な暮らしに向けて

高齢者福祉関係ですが、介護保険事業計画・高齢者福祉計画の第8期計画を令和2年度に策定し、医療・介護が連携したサービス基盤の整備や介護人材の確保に加え、地域で共に暮らす人と人が支え合う自助・互助の関係を構築し、持続可能な介護保険制度となるよう、地域包括ケアシステムの深化・推進に努めています。

地域包括支援センター業務を
市社会福祉協議会に委託

高齢者の皆さまが可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を送るための支援を包括的に提供する地域包括支援センター業務については、令和2年度から人吉市社会福祉協議会に委託しています。その初年度の令和2年7月に豪雨災害が起こり、要支援者の安否確認や避難所での相談対応、介護サービスの調整など、発災直後から迅速な支援活動を行っていただいています。

また、介護や健康、権利擁護などの各種相談に社会福祉士などの専門職が対応する総合相談窓口や、認知症の疑い

など早い段階で積極的に関わっていく「認知症初期集中支援チーム」の活動など、高齢者支援に努めていただいているところです。

ころばん体操や脳いきいき
教室で元気に長生き

介護予防関係ですが、各地域の高齢者の身近なところでデイサロンを実施しています。また、高齢者の介護予防のために必要な運動・脳トレの体操をバランスよく取り入れた「人吉ころばん体操」の普及を通じて、住民主体の集いの場づくりに取り組む団体の支援を行っています。

全国的にも認知症高齢者が増加していることから、認知症の早期発見、早期対応、予防にも取り組んでいて、令和3年度からの新たな取り組みとして、脳いきいきサポーターの養成講座や脳いきいき教室を開催しています。特に、脳いきいき教室では、受講の前後で認知機能や短期記憶力、計算処理力が伸びるなどの効果が得られていることから、介護予防の取り組みと併せて、認知症予防にも取り組んでいきます。



手話言語等条例の制定を祝うろう者団体や手話サークルの関係者たち



町内会などで実施している「人吉ころばん体操」